

# 120美酒会便り



120三田会のさらなる親睦を

## 120美酒会 基本活動方針

- ・同期の交流を広げ、深める
- ・美味しい日本酒と料理を味わう
- ・日本酒文化の理解と酒蔵支援

Vol. 14  
2010.07.15発行

ご挨拶

会長 杉原 英一

世間では国技・大相撲が大変なことになっています。一方でサッカード杯で日本は大健闘して我々に感動と勇気を与えてくれ、そして高い国際的評価も受けています。さて日本酒の世界に目を向けると国酒とは言えないほど国内での消費低迷は続いているものの、意欲ある銘醸蔵がジャンプインと同様、世界の舞台で評価されその存在感を示しつつあります。その中でも異彩を放っているのが今回登場する佐渡の「真野鶴」醸造元・尾畑酒造さんです。(1892年、創業者・尾畑与三作氏)またこの度120美酒会紹介蔵で初めての女性蔵元ということで尾畑留美子さん(129三田会・政治卒)をお招きしました。真野鶴を支える酒造りには4大要素「米・水・人・自然」への思い入れが貫かれています。そして尾畑さんの様々な活動は佐渡の風土・伝統文化を生かしたこれからの日本酒文化の創造だけでなく、尾畑さんを含めた佐渡の人たちの取り組みが日本の観光立国・自然環境保護のあり方へ示唆も与えてくれているようでもあります。とりわけ環境保全に関しては朱鷺の保護活動を通して「世界の生物多様性保全」という大命題に対して我々がどこでどう取り組んでいったらいいかを問いかけてくれます。佐渡の美酒を味わえるこの機会に、日本の自然環境を守る為にどう行動していけるかも考えてみようと思います。

副会長 妹尾 理恵

「真野鶴」の尾畑留美子さんと私の出会いは、数年前に偶然立ち寄った百貨店の物

産展でした。当時「尾畑酒造」は真野鶴大吟醸「万穂」がロンドンの世界のソムリエ達の審査によるインターナショナルワインチャレンジにて、大吟醸部門において第1回金賞受賞した話題の蔵元でした。殺風景な物産展の中、清楚で知的な尾畑さんはひととき目立っていて、思わずお声をかけたら塾出身の後輩と解り小躍りするほど嬉しくなりました。

昨年連合三田会にて慶應OB蔵広場を開催するにあたり、私はまず尾畑さんに相談しようと、東京でのイベント開催前の貴重なお時間を頂戴しご意見を伺いました。その時にSAKE ASSOCIATE KEIO・SEN・SAKEが深める慶應の縁々という素敵なコピーをご提案頂きながら配布パンフレットに使う事ができました。

そこで今回、美酒会事務局ではこのコピーを使って「佐渡市トキ環境整備基金」を応援するオリジナルラベル酒を尾畑さんのご協力にて完成しました。トキの学名は「ニッポニア・ニッポン」。まさに日本を代表する鳥です。トキが舞い続けられる環境は人やお酒にとつてもやさしいはず。どうか皆様！趣旨にご賛同頂きましてこのオリジナルラベル酒をご家族友人と共にトキや佐渡や真野鶴のお酒について語り合い、絆を深めていただければ大変嬉しいです。

今回は5年前の第2回美酒会で好評だった和食「えん」にて42階から夜空を見ながらの会となります。大吟醸「万穂」やエールフランスのファーストクラスに搭載されている大吟醸等、世界が認めた美味しい日本酒を皆様と共に味わいましょう。

本日は真野鶴を携えて世界中飛び回ってお忙しい尾畑さんにご出席いただき、色々なお話を伺えるのを楽しみにしています。

事務局長 村田 健

「真野鶴」尾畑留美子さんは129三田会の塾員で、妹尾副会長のIWC受賞情報がきっかけで知り合うことができ、昨年の連合三田会「慶應出身酒蔵21」コーナーにも出店いただきました。彼女の故郷である佐渡を愛し、日本酒を佐渡から世界へと熱い思いで世界を股に活躍されている姿に敬服しております。そんな中でささやかにでもお役に立てることがないかと、副会長のコメントにもあるように佐渡の朱鷺を守るために特別企画を用意しました。是非、ご協力を御願います。今回は第二回美酒会でも大変お世話になった、我々の活動へのご協力度も抜群で、料理と夜景の素晴らしさも申し分のない汐留「えん」での開催となります。真野鶴のすばらしいお酒を素敵な留美子さんの熱い解説つきで、ご堪能いただくに相応しい場所だと思えます。また昨年の連合三田会と一緒に模擬店部会で活躍してくれた130三田会の後輩たちも日本酒に深い興味と愛着を持つようになり、我々120美酒会のような同期の輪を広げる活動にも憧れをもってくれており、今回、是非、同席して勉強させてほしいということで、参加してくれています。尾畑さんとも近い世代だし、これを機会に各年度の三田会へこのような輪が広がってくれて、いつか「連合美酒会」なる催しが実現できたらとっても嬉しいです。

